

～ 地域課題を知る ～

山梨県立富士河口湖高等学校

1 事業名

K I P (K A W A K O I N S I G H T P R O G R A M) としての
「総合的な探究の時間」の取り組み

2 事業の目標

- ①自分が生まれ育ち、現在も居住している地域の課題について、主体的・協働的な探究活動をとおして理解を深め、将来的には地域に戻り、多方面から活性化に貢献することができる地域リーダーの育成。
- ②地域課題解決の取り組みから、将来の進路実現へ繋がる個々の探究活動能力を養う。

3 育てようとする資質や能力及び態度

自ら思考できる資質、論理的思考力、実践的なコミュニケーション能力、課題解決能力、そして、好奇心を高め、他者と協働すると同時に自らの意見を伝え、継続的に取り組む態度

4 活動の計画（3年間の内容）

- 1 学年：「地域課題を知る」（地域課題を知ると同時に、関係する職業やその人の生き方について学ぶ）
- 2 学年：「地域課題について考える」（地域課題について考え、改善・解決のためのプランニングをする）
- 3 学年：「地域課題解決のための手法を発信する」（高校生として提案・発信する）

5 実施状況

1 学年の内容

4 月・・・○K I P の内容について、ガイダンスを実施。

○「富士山レンジャー」から「富士山の自然環境とその保全」をテーマとして、身近な富士山麓の自然環境の現状、そこから見える保全への諸課題などについて話をしていただいた。

5 月・・・○山梨県立文学館学芸員による出前講座。

「山梨の文学 ～太宰治・中村星湖～」をテーマに、山梨に縁のある作家、太宰治や中村星湖の人生や、その作品と地域とのかかわりなどについて、話をしていただいた。

○山梨県立美術館学芸員による出前講座

「山梨の美術について」をテーマに、山梨県に関係するアーティストを中心とした美術の視点の話をしていただいた。

- 6月・・・○出前講座を踏まえ、博物館・美術館・文学館の実際に施設に訪問する機会を設け、山梨について一層理解を深めた。
- 富士河口湖町役場政策企画課の方から「富士河口湖町の現状と課題」をテーマに、富士河口湖町の現状や抱える課題、今後のまちづくりなどに関するお話や、探究学習を進めるにあたって、課題設定の手法など、多岐に渡る話をしていた。
- 富士河口湖町教育委員会生涯学習課文化財係の方からは、「富士河口湖町の歴史と文化」をテーマに、富士山信仰を中心とした地域の歴史や、地域の祭りなどの伝統文化に関する話をしていた。
- 7月・・・○高校時代に行っておくべきことや、これからの進路選択に向けて、どのような心構えが必要かといったことを意識するため、株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブより講師を招聘し、「スモールクラブヴァンフォーレ甲府が伝えるスポーツビジネスの魅力」というテーマで講演をいただいた。
- 7月末から9月にかけて、2年次での文理選択における学習として、夢ナビの動画視聴を行い、進学に対するイメージを具体化し、進路意識の高揚を図った。
- 8月・・・○富士東部保健所から講師を招聘し、「やまなしの健康づくり」をテーマに、県内の医療福祉の現状や、健康づくりに携わる職業の紹介など多岐に渡る話をしていた。
- 9月・・・○2学年の探究活動との接続のため、2学年の中間発表を聴講し、これからの自分たちの探究テーマや方向性について、考える機会を設けた。
- 山梨の大学について出前講座等を利用して、「大学でどんなことが学べるのか」・「大学の現状や卒業後の進路について」など県内の大学の先生方より様々な話をしていた。
- ①山梨大学（8テーマ）
- ・ことばのしくみ
 - ・数学的な見方や考え方を養うには
 - ・彫刻表現 テラコッタをつかって
 - ・未来の子どもを救う方法を今日亡くなった子どもに聞く＝チャイルド・デス・レビュー
 - ・ひとが生きるということ～集中治療室で看護師として働いて考えたこと～
 - ・リハビリテーション概論～理学療法・運動療法～
 - ・発酵食品について
 - ・高校生のためのキャリア形成
- ②健康科学大学
- ・理学療法学科について
 - ・看護学科について

10月・・・○9月に引き続き、山梨の大学について出前講座等を利用して、「大学でどんなことが学べるのか」・「大学の現状や卒業後の進路について」など県内の大学の先生方より様々な話いただいた。

③都留文科大学

・「高校生のための社会起業論（ソーシャルビジネス）：社会課題に挑み・解決する生き方」

④山梨県立大学（5テーマ）

・仕事選びー看護の仕事ー
・文化人類学：世界の文化を知ろう！
・「自治体 2040 問題」で考える我がまちの未来
・社会福祉を学ぶ「私」を大切にすることの意味
・子どもと美術

⑤産業技術短期大学校（3テーマ）

・機械図面の基礎～立体を平面で表す～
・AI 技術の体験
・3D プリンター入門

○北麓地域の産業や観光、地域の魅力などについて企業の話を行うために、企業を支援する栗井英朗環境財団と北麓地域の魅力を発信している株式会社 P N E U M A 様を招聘し、話をしていただいた。

10～2月・・・○探究の方法について1学年全体で学習。（全5回）（予定）

・外部プログラム（TimeFact）を活用した探究学習の基礎を学習した。

- | | |
|----------|-----------|
| 1) 課題の設定 | 2) 情報の収集 |
| 3) 整理・分析 | 4) まとめ・表現 |
| 5) ふり返り | |

3月・・・○各クラスで、4つのテーマに沿ってグループを編成し、学習した探究の流れに従って課題を設定し、課題解決に向けたグループ学習を実施した。また、2学年の最終発表を見学し、本校の探究活動の実態を把握した。

①「環境・防災」

（富士山文化遺産・樹海・地質学・富士五湖・獣害対策・富士山噴火・南海プレート地震・水害・森の保守など）

②「産業・観光」

（インバウンド・オーバーツーリズム・起業・商品開発など）

③「医療・福祉」

（保育・福祉・医療・医療従事者不足・県内の健康問題など）

④「暮らしと文化」

（富士山信仰・教育・ゴミ問題（富士山も含む）・人口問題・空き家問題・仕事など）

2 学年の内容

4 月 . . . ○ ガイダンス・テーマの決定

1 学年の自分の取り組みを見直し、今年度の 4 つのテーマ「環境・防災」、「産業・観光」、「医療・福祉」、「暮らしと文化」についてそれぞれ興味あるテーマを選択しグループづくりを行った。今年度は 1 学年との連携を目標の一つとしており、自分たちの探究活動に、課題が残ったり、新たな課題が発生したりしても、無理に解決しようとせず、次年度への引継ぎとして残すこととした。

5 月・6 月 . . . ○ グループでの探究課題の設定・活動…開始

探究計画書の提出(整理シート)

情報収集、整理と分析、中間発表準備を行った。

7 月～9 月 . . . ○ テーマごと中間発表を行い、課題の確認・修正および課題の解決策・手段について検討した。

10 月 . . . ○ 現地での調査・確認、現地に赴いて直接のインタビューや施設見学、非常食の試食や起震車の体験、河高生徒に対するアンケート等、実際にアクションを起こし、探究活動をさらに深めた。

また、沖縄修学旅行事前学習を通して地域課題の比較について考えた。

11 月・12 月 . . . ○ 発表会に向けて原稿等の準備をした。

資料作成(ポスターセッション・パワーポイント等)役割分担の決定

1 月～2 月 . . . ○ リハーサル(グループごと)を経て発表。

3 月 . . . ○ テーマごとの選抜グループによる全体発表会。1 年生にも発表を見せることにより、本校のテーマや諸課題を引き継いだ。

5 事業の成果と今後の課題

探究学習を 3 年間かけて、自分の将来(進路)に繋がるように「地域課題」を題材にして、1 学年では「知る」、2 学年では「考える」、そして 3 学年では「発信する」を目標に計画した。また、これまで単年度で完結させていた探究活動を、継続的なものとし、さらなる深まりを持たせられるように、1、2 学年の連携を検討してきた。そのため、二つの学年を通じ、共通するテーマを設け、テーマに基づいた取り組みを実践した。

1学年の活動では、生徒自身が住んでいる地域のことについて、講師の方の話聞く中で、地域のことについて初めて聞くことや知ることが多く、また、歴史・文学・自然・仕事などについて、自分が生きている(生活している)地域や仕事や職業などについて理解を深め、自らの将来を考える学びを体験できたと考える。

2学年の活動では、これまでの活動を深化させていくとともに、未解決課題やさらなる探究課題が発生した際には、次年度に引き継ぐという意識を持ち、柔軟で幅広い活動ができるようになった。

これらの体験を通して、生徒は山梨や地域について「何となく知っている」から、地域の現状に興味・関心を持ち、徐々に「知る」から「考える」ようになってきている。

地域や自分の将来、高校生としてできることは何かを考えさせ、しっかりと行動できる姿勢を身につけ、地域や社会に貢献できる人材を育てることがこのプログラムの課題である。

活動の様子



文学館・県立美術館での展示見学や学芸員からの講義聴講



各大学からの出前講義

企業からの講演



グループに分かれての探究活動